



平成27年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

解答速報！

2015/10/16 現在

【財務分析】

第1問（34点）

問1 C 問2 C 問3 B 問4 A 問5 B 問6 D 問7 C 問8 A
問9 D 問10 D 問11 B 問12 C 問13 D 問14 A 問15 A 問16 D
問17 B

第2問（12点）

問1 D 問2 B 問3 E 問4 D 問5 C 問6 E

第3問（18点）

I

問1 D 問2 A 問3 C

II

問1 C 問2 A 問3 B

III

問1 B 問2 E 問3 C

第4問（26点）

(1)

① F ② D ③ E ④ A
ア D イ C ウ B

(2)

⑤ E ⑥ C ⑦ B ⑧ I

(3)

⑨ A ⑩ D ⑪ E
エ B オ E カ A キ E

(4)

⑫ G ⑬ H ⑭ C ⑮ E
ク D ケ A コ C サ B

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2015証券アナリスト1次試験（秋）

「財務分析」

2015 年（秋）試験は、例年通り大問 4 問の出題で、各大問への配点も同じであった。第 1 問における一部の問題を除けば、全体として例年通りのレベルであった。具体的な内容は、以下のとおりである。

第 1 問の正誤選択問題は、17 問の出題であった。包括利益や社債の格付けなど一部細かな論点が見られたが、情報開示、収益認識基準、有価証券、棚卸資産、減価償却、連結会計等、定型化された項目も多く高得点の望める内容であった。

第 2 問の個別計算問題は、6 問の出題であった。新株予約権戻入益の計算は、目新しい内容であったが、その他は基本的な処理が問われた。なお、近年、分析総合問題の計算要素として取り上げられるようになった総費用法の処理が独立した形式で出題された。

第 3 問の総合計算問題は、9 問の出題であった。Ⅰ減損会計、Ⅱリース会計、Ⅲ退職給付会計について 3 問ずつ出題された。退職給付会計における年金資産の実際収益率、割引率の変更に関する仮想事例は、新たな切り口での出題であり難易度の高い内容であった。

最後の第 4 問の分析総合問題は、ROE のデュポン・システムによる 3 要因分解、百分率損益計算書の読取り、主要資産の回転率分析、安全性分析といったオーソドックスな内容であった。ボリュームのある問題文も平易な構成となっており、十分に満点を狙える問題であった。

以上

TAC 証券アナリスト講師室